

2024 年リハビリテーション医学セミナー感想文

【三重大大学医学部附属病院】

医学部2年生

三重大大学医学部附属病院のリハビリテーション科のセミナーに参加させていただきました。リハビリテーション科についての説明を受けた後、理学療法士の方が患者さんとともにリハビリテーション治療をする様子を見学させていただいたり、実際に体験させていただいたりしました。特に、初めて嚥下内視鏡を持たせていただいたことや、高次脳機能検査の体験が印象に残っています。また、嚥下機能の低下した患者さんに使用される「とろみ水」はデキストリンや増粘多糖類でできていることを初めて知り、実際に試飲してみるとあまり美味しいとは言えませんでした。そのため、先生はできる限り薄めて使用したりと工夫しているそうです。これは教科書では学ぶことのできないことだと感じました。リハビリテーションスタッフが不足しているというお話も聴き、より一層勉学に励み、医学知識をさらに知りたいと強く感じることでした1日でした。百崎先生には低学年の私にも理解できるように丁寧に説明していただき、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。



医学部3年生

三重大大学医学部附属病院のリハビリテーション科を見学させていただきました。まず最初にリハビリテーション医療とは何を目的としてどのようなことを行うのか、リハビリテーション医療に関わるさまざまな職種といった全体的なことを説明していただいた後、リハビリテーション室の見学、杖の使用やリハビリテーション治療の体験、とろみ水の試飲、電気刺激療法や認知機能検査の体験を行いました。特に電気刺激療法の体験が印象的で、教科書からの伝聞でしかなかった大脳皮質運動野と実際の運動の関係が、実感を持って理解できました。また、先生のお話では嚥下障害にも様々な原因があり、有効な対処が異なるため、丁寧に評価をしていく必要があること、時に歯科領域の評価もする必要があることが意外で印象に残っています。今回のセミナーで、リハビリテーション科は日常生活と密着した科であることが感じられ、将来の選択肢の一つとして具体的にイメージできるようになりました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



医学部4年生

この度、三重大学医学部附属病院のリハビリテーション科で見学・体験させていただきました。セミナーでは教授の百崎先生よりリハビリテーション医療の基本的な知識やリハビリテーション科医の働き方、VRや3Dスキャンといった最新の技術などについてご説明していただきつつ、実際の嚥下機能評価の現場にも参加させていただきました。これらの経験を通して、リハビリテーション医療やリハビリテーション科医の仕事についての理解が大変深まりました。また、嚥下機能評価に用いられるとろみ付き飲料やゼリー、脳卒中後の上肢麻痺に対する経頭蓋磁気刺激療法も体験させていただきました。特に、経頭蓋磁気刺激療法の機器により自らの手が動いた体験は非常に印象的で、リハビリテーション医療の可能性の大きさや技術の進歩を強く感じました。今回のセミナーを通じてリハビリテーション医療の重要性や有効性を再認識し、リハビリテーション医学に対する関心がさらに強いものとなりました。今回の貴重な経験が無駄になることのないよう、今後も学び続けていきたいと考えております。そして、将来的にはリハビリテーション医療に少しでも貢献することができれば幸いです。この度は誠にありがとうございました。

